【論　文】

人為的事態の結果の「好まれる言い回し」
―日本語と韓国語の自動詞表現と受動表現―

副 島 健 作[1)*]

1）東北大学高度教養教育・学生支援機構

要旨: 本稿では，動作主非明示の人為的事態を示す表現，すなわち，受動文（皿が割られていた）や自動詞文（いすが壊れている）などを取り上げ，１）日本語と韓国語ではどのような言い方が自然か，２）その使用傾向において両言語に違いが生じる理由は何か，を研究課題として考察した．韓国出身の上級日本語学習者に対し行った，受身文やシテアルなどの日本語から母語への自然訳データ（作例），日本語と韓国語のパラレルコーパスから抽出した当該場面のデータ（実例）を分析した結果，次の点が明らかになった．（Ⅰ）日本語は，明確な動作主の存在を前提としない主観的把握を好み，自動的表現が韓国語より多く用いられる傾向にある，（Ⅱ）結果の状態を受動構文で描写する場合，韓国語では主語である変化物と動作主の関係を前提とした接辞形を選択する傾向にある．以上の結果から，日本語は主観的把握を好み，韓国語に比べ主観性の高い言語であることが示唆された．

0. 序

本稿では，言語ごとに異なる「好まれる言い回し」（池上・守屋 2009），すなわち，同一事象の描写の差異に着目しつつ，動作主が不明か重要ではない場合の，人による行為の過程や結果の状態をどう表現するかという機能面を韓国語と比較しながら考察し，日本語の事態把握の特徴を明らかにする．

1. 背景と目的

「好まれる言い回し」は言語間で異なるとされるが，動作主非明示の人為的行為を表す場合も例に漏れない．以下の例（１）は日本語も韓国語も受動文，（２）は日本語は自動詞，韓国語は受動文，（３）は日本語はシテアル，韓国語は受動文で示されている（以下，韓国語の例文のローマ字表記においては，自動・受動に関わる形態素は前後をハイフンで分割し，斜体で示すことにする）．

（１）　日：皿が割られていました．
　　韓：이미　　접시가　　깨져　　있었어요．
　　imi　　ceopsika　　kkae-*cye*　　iss-eoss-eoyo
　　すでに　皿が　　割る-cita-ていました
　　「すでに皿が割れていました」

（２）　日：そのいす，壊れているよ．
　　韓：그　　의자，　　망가졌어．
　　keu　　uica,　　mang-ka-*cye*-ss-eo
　　その　　いす　　壊す-cita-たよ
　　「そのいす，壊れたよ」

（３）　日：カレンダーに今月の予定が書いてあります
　　韓：달력에　　이번　　달　　예정이
　　tallyeok-e　　ipeon　　tal　　yeceong-i
　　カレンダーに　今　　月　　予定が
　　쓰여져　　있습니다．
　　sseuyeo-*cye*　　issseupnita.
　　書く-cita-ています
　　「カレンダーに今月の予定が書かれています」

本研究では，このような言語間における構文使用の傾向の違い（受動か能動か，自動か他動か，完結か不完結か，韓国語の受動表現の接辞形とcita形（生越 2008）使用の傾向等）について考察し，両言語でどのような表現が好まれるか明らかにする．

2．先行研究

2.1.　パラレルコーパスによる分析

千・柏原（2006），堀江・パルデシ（2009），Soejima

*）連絡先：〒980－8576　仙台市青葉区川内41　東北大学高度教養教育・学生支援機構　kensaku@m.tohoku.ac.jp

(2014) は，この違いについてパラレルコーパスを分析し，言語間の構文使用の分布状況の違い（受動か能動かなど）を量的に示した．

千・柏原 (2006: 135) は日本語の文学作品において，日本語の受身文が韓国語の能動文に訳される場合だけを分析対象とし，対応状況と使い方の特徴を分析した．その結果，日本語で受身文を用いる場面でも韓国語では「能動文で対応する」傾向が見られ，韓国語は「動作を行う側に視点を置いて，動作主による動作が成立したというその出来事を客観的に表現する」と主張し，日本語とは「視点の置き方及び解釈の焦点」に違いがあることを指摘している．

堀江・パルデシ (2009: 188-197) は日本語が原文の作品とその英・韓・中・マラーティ語訳のパラレルコーパスを使用し，受動構文の使用頻度を調べた．その結果，日本語が受動構文の使用頻度が一番高く，韓国語，英語，中国語が順に中間に位置し，マラーティ語が一番低いことを示した．また，堀江・パルデシ (2009: 198) は英語が原文の映画 *The diary of Anne* とその日本語・韓国語訳のセリフ（字幕）を分析し，複文において日本語では主題の一貫性を実現する手段として受動構文が使用される傾向が英語や韓国語より顕著であると指摘した．

Soejima (2014: 122) は，日本語とロシア語のパラレルコーパス（日本語が原作６作品，ロシア語が原作２作品，いずれも短編小説）を使用し，動作主が不定の人為的事態を表す場面において，受動文，不定人称文，能動文（不定人称文除く），その他の表現（いわゆる意訳）の使用の分布状況を調べた．その結果，「過程」を表す場合，ロシア語と比べ日本語は受動構文の頻度が高いこと，また，「結果」の状態を表す場合，日本語は受動文だけでなく，自動詞文を使用する傾向にあるのに対し，ロシア語は受動文や自動詞文のほか，様々な表現があることが示された．

千・柏原 (2006) は韓国語，堀江・パルデシ (2009) は英・韓・中・マラーティ語，Soejima (2014) はロシア語との違いについて論じたものであるが，受動構文については言語によって選択の傾向が異なり，そこに視点の違いが影響していること，その中でも日本語は受動構文を好んで使う言語であるということが確認された．また，結果の状態を表す場合には必ずしも受動構文だけでなく，自動詞文など様々な仕方があり，言語によって選択の傾向に違いがあることが浮き彫りになった．

2.2. 日本語母語話者・学習者の視点の表現の研究

第二言語としての日本語の分野では，日本語母語話者と学習者による視点に関する表現の違いを調査した研究が見られる．短いストーリーについて日本語で説明する談話を日本語母語話者と日本語学習者間で比較した研究もいくつかなされている．例えば田代 (1995)，渡邊 (1996)，奥川 (2007) では，主語と動詞の使われ方を調査している．金 (2001) は，文の主語と，動詞を「スル型」「サレル型」「ナル型」に分けたものをグループ間で比較した．徐 (2013) は日本語話者と韓国語話者，そして韓国人日本語学習者を対象にシナリオ作成法の調査結果を分析している．これらの研究では，日本語母語話者はある登場人物に視点を固定して談話を展開する傾向にあり，「主観的把握」が見られるが，日本語学習者は「客観的把握」の傾向が見られ，視点が人物間を移動するため，結果的に日本語の文章としては不自然でわかりにくいものになっているとされる．

2.3. これまでの研究の成果

これらの研究成果により，受動構文については言語によって選択の傾向が異なることが指摘された．そこには（ｉ）視点の違いが影響していること，すなわち，日本語は「主観的把握」の傾向にあること，（ii）日本語は受動構文を好んで使う言語であるということ，（iii）結果の状態を表す場合には必ずしも受動構文だけでなく，自動詞文など様々な仕方があり，言語によって選択の傾向に違いがあること，が浮き彫りになった．

本研究では，これら言語間による「好まれる言い回し」の違いを客観世界に対する事態認識の言語化の違いと考える．そして，それぞれの表現の使用に関わる要因として何が影響しているかを検討し，事態把握の言語間の差異についてより詳細に明らかにしていく．したがって，本稿では，受動文，自動詞文，シテアル構文を取り上げ，韓国語との比較により，同じ事象の

描写においてどのような言い方が自然か，その背景にある事柄とは何かを考察する．

３．韓国語の受動表現

韓国語は動作主が意図的に行った行為を事態の実現や結果に着目し，動作主を背景化して示す場合，主に受動の表現を用いる．韓国語の受身の作り方はいくつかあることが指摘されているが，おおむね次の３つに大別される（「接辞形」,「cita形」の用語は生越（2008）による）．

(i)　接辞形―被動の意味を表す接辞 이 /i/, 히 /hi/, 리 /li/, 기 /ki/ の接続による[1)]

（４）범인이　　경찰에게　　붙잡혔다.
peom-in-i　kyeongchal-eke　putcap-*hye*-ssta.
犯人は　　警察に　　捕まえる-i/hi/li/ki-た
「犯人は警察に捕まえられた」

(ii)　cita形―被動の意味を表す語尾 지다 /cita/ の接続による[2)]

（５）한글은　　세종대왕에　　의해서
hankeul-eun　secongtaewang-e　uihaeseo
ハングルは　世宗大王　　によって
만들어졌다.
manteul-eo-cye-ssta.
作る-cita-た
「ハングルは世宗大王によって作られた」

(iii)　하다 hata 動詞[3)] の語尾を -되다 /toyta/, -당하다 /tanghata/, -받다/patta/ に変える

（６）우리는　　이번　　대회에서
ulineun　ipeon　taehoeeseo
私たちは　今回の　　大会で
라이벌 팀에　　우승당했다.[4)]
laipeol tim-e　useung-tanghae-ssta.
ライバルチームに　優勝された
「私たちは今回の大会でライバルチームに優勝された」
（許（1999: 117-118）を一部修正）

接辞形とcita形の違いについては，生越（2008: 174-178）が「破れる/破られる」を意味する찢기다 ccic-*ki*-ta（接辞形）と 찢어지다 ccice-*ci*-ta（cita形）の使い分けについて，実例をもとに分析し，接辞形は主語である変化物と動作主の関係を前提とした受動的な意味を持ち，cita形は明確な動作主の存在を前提とせず変化自体を表す，いわゆる非対格自動詞のような意味を表す傾向にあるとしている．

４．研究課題

本発表では，例文（１）-（３）の例のような引き起こされた事態とその結果に着目し，動作主については言及しない状態を表す場面を考察の対象とする．これら３つの表現，すなわち非対格自動詞や受動文の不完結とシテアルを取り上げ，次の２点について検討する．なお，以下本稿では，「自動詞」を非対格自動詞の意味で用いる（「歩く」「飛ぶ」のような主語になるものが動作主である非能格自動詞は考察の対象としない）．

人為的事態の過程や結果を描写する際，

1. 日本語と韓国語ではどのような言い方が自然か
2. その使用傾向において両言語に違いが生じる理由は何か

５．研究データ

以上の課題について検討するため，２つの方法でデータを収集した．１つは母語話者に接触して集めた作例データであり，もう１つは同じ内容が韓国語で翻訳されたパラレルコーパスを使用して集めた実例データである．

作例によるデータ収集として，韓国語を母語とする上級レベルの日本語学習者５名にたいしアンケート調査を行った．調査票には，例えば受身文やシテアルなど過程や結果の状態を示す例文を日本語で提示し，母語に自然訳（日常会話に現れるような普段使う韓国語に）してもらった．翻訳は調査対象者ではない韓国語母語話者の協力のもと，提示した日本語文の内容を理解しているかなどの正誤を判断し，分析の資料とした．

また，実例によるデータ収集は，日本の小説２編，村上春樹著『ノルウェイの森』，太宰治著『人間失格』とその韓国語翻訳本，総計４編を使用した．これら選んだのは，有名な作品であり，韓国語の翻訳が市販されていて，テキストが公に認められたものであること

と，情景の描写が多く，分析の対象とする人為的事態の結果状態の場面が多く描かれていることからである。原作が日本語版の小説においてシテイル（受動文のシテイルも含む）とシテアルの文を同定した．それを基準に動作主が不定の人為的事態の結果を表しているものだけを取り出し，対応する韓国語の文とともに分析の資料とした．

6．アンケート調査の結果

調査結果は表１に示したとおりである．以下，動作主が不特定の人為的事態を表す場合の日韓語における表現選択の特徴について読み取れることをまとめる．

6.1.　日本語も韓国語も受動構文を使用する場合

習慣や繰り返し（項目⑨，⑩），時間的に限定されない対象の性質や特徴（「属性叙述受動文（益岡1987）」（Givón（1981）では「動詞の状態化（脱他動化）」））（⑫），生物が対象で共感度が高く，被害の度合いが高く感じられる場合（⑮），は受動構文によって表される．

（７）　일본의　　차는　　세계곳곳에
ilpon-ui　　chaneun　　sekyekoskos-e
日本の　　車が　　世界中に
수출되고　　있다.
suchul-*toye*-ko　issta.
輸出されている
「日本の車は世界中に輸出されている」
《習慣や繰り返し》

（８）　산노마루는　　토루와　　해자에
sannomaluneun　　toluwa　　haeca-e
三の丸は　　土塁と　　堀に
둘러싸여　　있었다.
tulleossa-*ye*　iss-eossta
囲む-i/hi/li/ki-ていた
「三の丸は土塁と水堀りに囲まれていた」
《時間的に限定されない対象の性質や特徴》

表１．「動作主が不特定の人為的事態を表す表現」にかんするアンケート調査

		日本語	韓国語				
			自動詞		他動詞		その他
			能動文		受動文		
			不完結	完結	不完結	完結	
シテイル（自動詞）	①	電気がついています	5	0	0	0	0
	②	壁に絵がかかっている	4	0	0	0	1
	③	かばんが開いていますよ	4	1	0	0	0
	④	そのいす，壊れてるよ	0	5	0	0	0
シテアル	⑤	（セロテープは）引き出しにしまってあるよ	2	0	0	0	3
	⑥	机の上にメモが置いてあった	0	0	4	0	1
	⑦	カレンダーに今月の予定が書いてあります	0	0	5	0	0
	⑧	窓が開けてあった	5	0	0	0	0
サレテイル	⑨	並木道は「定禅寺通り」と呼ばれている	0	0	1	3	1
	⑩	日本の車は世界中に輸出されている	0	0	5	0	0
	⑪	皿が割られていました	5	0	0	0	0
	⑫	三の丸は土塁と水堀に囲まれていた	0	0	5	0	0
	⑬	正面の棚に人形が飾られていた	0	0	5	0	0
	⑭	交番に町の地図が貼られています	0	0	5	0	0
	⑮	ダンボールに子猫が捨てられていた	0	0	5	0	0

（９）　골판지　　상자에　　새끼고양이가
kolpanci　　sangca-e　　saekkikoyang-ika
段ボール　　箱に　　子猫が
버려져　　있었다.
peolyeo-*cye*　　iss-eossta.
捨てる-cita-ていた
「段ボールに子猫が捨てられていた」
《生物が対象で高共感度》

6.2.　結果の状態を表す場合

結果の状態の描写において，韓国語は受動構文，日本語は受動構文, シテアル, 自動詞文を使い分ける（項目①-⑧，⑪, ⑬, ⑭）.

（10）　이미　　접시가　　깨져　　있었어요.
imi　　ceopsika　　kkae-*cye*　　iss-eoss-eoyo
すでに　皿が　　割る-cita-ていました
「皿が割られていました」

（11）　그　　의자，　　망가졌어.
keu　　uica,　　mang-ka-*cye*-ss-eo
その　　いす　　壊す-cita-たよ
「そのいす，壊れているよ」

（12）　달력에　　이번　　달　　예정이
tallyeok-e　　ipeon　　tal　　yeceong-i
カレンダーに　今　　月　　予定が
쓰여져　　있습니다.
sseuyeo-*cye*　　issseupnita.
書く-cita-ています
「カレンダーに今月の予定が書いてあります」

眼前の状態に動作主の関与が感じにくい場合，韓国語は自動詞を選択する（項目⑭，⑤）.

表２．自動・受動にかかわる形態の分布状況

形式		日本語	韓国語							
			一般動詞						hata動詞	その他
			自動詞	接辞形		cita形		接辞＋cita形	toyta形	
			不完結	不完結	完結	不完結	完結	不完結	不完結	
シテイル（自動詞）	①	電気がついています	0	5	0	0	0	0	0	0
	②	壁に絵がかかっている	0	4	0	0	0	0	0	1
	③	かばんが開いていますよ	0	5	0	0	0	0	0	0
	④	そのいす，壊れてるよ	0	0	0	0	4	0	0	1
シテアル	⑤	（セロテープは）引き出しにしまってあるよ	2	0	0	0	0	0	0	3
	⑥	机の上にメモが置いてあった	0	2	0	0	0	2	0	1
	⑦	カレンダーに今月の予定が書いてあります	0	2	0	0	0	3	0	0
	⑧	窓が開けてあった	0	5	0	0	0	0	0	0
サレテイル	⑨	並木道は「定禅寺通り」と呼ばれている	0	0	3	0	0	1	0	1
	⑩	日本の車は世界中に輸出されている	0	0	0	0	0	0	5	0
	⑪	皿が割られていました	0	0	0	5	0	0	0	0
	⑫	三の丸は土塁と水堀に囲まれていた	0	5	0	0	0	0	0	0
	⑬	正面の棚に人形が飾られていた	0	0	0	2	0	0	3	0
	⑭	交番に町の地図が貼られています	4	0	0	0	0	1	0	0
	⑮	ダンボールに子猫が捨てられていた	0	0	0	5	0	0	0	0

(13) 파출소에　　마을　　지도가
pachulso-e　　ma-eul　　citoka
派出所に　　町　　地図が
붙어　　있습니다.
put-eo　　issseupnita.
貼りついています
「交番に町の地図が貼られています」

6.3. 考察

自動詞および受動構文による結果表現は韓国語においてもほぼ同じように表現されている．また，日本語では4つのシテアル構文を提示したが，そのうち２例は受動構文（⑥，⑦），１例は自動詞（⑧）で表現された．受動構文で提示した⑪も自動詞が選択された．

これらは動作主の存在がより感じられにくいものである．いずれの言語も，状態を自然作用の結果とみるか人為作用の結果とみるかで，自動詞と受動構文を使い分けていると思われる．

6.4. 韓国語の受動構文の使い分け

ただし，韓国語では一口に受動構文といっても，すでに第３章で述べたとおり接辞形とcita形，漢語＋하다 hata 動詞の語尾を -되다 /toyta/, -당하다 /tanghata/, -받다/patta/ に変える形の3つがあるとされる．ここでは，どのような場合にどの構文が使われるか，とくに接辞形とcita形の違いに焦点を当ててみていくことにする．表２は日本語の自動詞文，シテアル，受動構文の例が韓国語でどのような構文に翻訳されたかを示したものである．接辞形の例もcita形の例も日本語の各構文に見られ，構文間で対応関係はみられないことがわかる．では，韓国語における接辞形とcita形による自動・受動表現にはどんな傾向があるのだろうか．この点について他動性の概念を用いて説明を試みる．

他動性についてはHopper & Thompson（1980: 252）やヤコブセン（1989: 217），角田（1991: 72）らによって他動性を測る基準としてパラメーターが設定され，それをすべて満たすものが他動性プロトタイプとされ，それぞれの要因の影響力の強弱によってその高低が規定されている．中でも「参加者２人以上」と「対象物の変化」は特に重要な要因である（角田 1991: 72）．

「変化」とはある状態や性質などが他の状態や性質に変わることであるが，その有り様には対象そのものがすっかり形や性質を変えてしまったり，出現（や消滅）したりするものから，対象の一部だけが変化したり，対象は変化せず，その位置だけが変わったりするものなど，様々であり，対象自体の変化のほうがより他動性が高いと考えられる．そこで本研究では，結果を描写している項目の特徴を「動作主の存在」と「状態変化」，「出現」，「部分的変化」，「位置変化」の特徴を持っていればプラス，なければマイナス，不明の場合「?」で示した（表３）．括弧つきのプラスは含意があるという意味である．

この表から，韓国語母語話者は⑧「開けてあった」，③「開いています」，②「かかっている」では接辞形

表３．他動性の度合いと韓国語の受動構文使用の相関

例文	⑪	④	①	⑬	⑦	⑥	⑧	③	②	⑭	⑤
動作主の存在	＋	－	－	＋	(＋)	(＋)	(＋)	－	－	＋	(＋)
状態変化	＋	＋	＋	?	－	－	－	－	－	－	－
出現	－	－	－	－	＋	－	－	－	－	－	－
部分的変化	－	－	－	－	－	－	＋	＋	－	－	－
位置変化	－	－	－	＋	－	＋	－	－	＋	＋	＋
他動性	高い →										低い
受動構文の選択（括弧は人数）	cita形（5）	cita形（4）	cita形（4）	toyta形（3）cita形（2）	接辞＋cita形（3）cita形（2）	接辞＋cita形（2）接辞形（2）	接辞形（5）	接辞形（5）	接辞形（4）	自動詞（4）	自動詞（2）

を使用している．これらは対象の部分的変化や位置の変化を示しており，対象そのものの状態変化を示していない．

(14)　창문이　열려　있었다.
changmun-i　yeol-*lye*　iss-eossta.
窓が　開ける-i/hi/li/ki-ていた
「窓が開けてあった」

(15)　가방　열려　있어요.
kapang　yeol- *lye*　iss-eoyo.
かばん　開ける-i/hi/li/ki-ていますよ
「かばんが開いていますよ」

(16)　벽에　그림이　걸려　있다.
pyeok-e　keulim-i　keol-*lye*　issta.
壁に　絵が　かける-i/hi/li/ki-ている
「壁に絵がかかっている」

一方，⑪「割られていました」(例文 (10))，④「壊れている」(例文 (11))，①「ついています」(例文 (17)) は一貫してcita形が好まれ，他動性の度合いが構文選択と関係しているように見える．

(17)　불이　켜져　있습니다.
pul-i　kyeo-*cye*　issseupnita.
電気が　つける-cita-ています
「電気がついています」

つまり，韓国語では対象そのものの状態変化の結果の状態を表す場合にはcita形の受動構文が好んで用いられ，他動性の度合いが低くなると接辞形の受動構文や自動詞（⑭や⑤）が用いられている．韓国語には他動性の度合いと自動・受動にかかわる構文の使用に相関があると言える．

他動性の度合いが低くなるということは，変化の結果から，それを引き起こした動作主・原因に焦点化が行われるということであり，その傾向が高くなると接辞形が選択される．これは，生越（2008）の指摘と一致する．

6.5.　接辞形とcita形の複合受動文

今回の調査では接辞形とcita形の複合受動構文（以下，複合形）も観察された．⑦「書いてあります」，⑥「置いてあった」において，前者は３名が複合形，２名がcita形を使用し，後者は２名が複合形，２名が接辞形を使用した．⑦は対象の出現を示し，⑥は対象の位置変化を示しており，cita形と接辞形を個々に選択するケースとしては前述した説明どおりとなっている．その一方で，両方の形を一緒に使用する例も見られた．

(18)　책상　위에　메모가
chaeksang　wie　memoka
机　上に　メモが
놓여져　있었다.
noh-*ye-cye*　iss-eossta.
置く-i/hi/li/ki-cita-ていた
「机の上にメモが置いてあった（直訳：置かれていた）」

(19)　달력에　이번　달　예정이
tallyeok-e　ipeon　tal　yeceong- i
カレンダーに　今　月　予定が
쓰여져　있습니다.
seu-*ye-cye*　issseupnita.
書く-i/hi/li/ki-cita-ています
「カレンダーに今月の予定が書いてあります(直訳：書かれています)」

状態そのものの変化の結果はcita形の受動構文，間接的な状態変化や位置変化の結果は接辞形の受動構文を用いる傾向にあるとする本稿の主張に従えば，両方の形を用いるというのは，状態の変化だけではなく，変化の原因や引き起こし手の立場，すなわち動作の側面にも焦点を当て，当該の事象を描くということである．

6.6.　アンケート調査に見られる受動構文選択の特徴

以上の観察から，動作主が不特定の意図的に行われる動作を描写する場合の，日本語と韓国語の特徴は次のようにまとめられる．

1. 習慣や繰り返される行為，時間的に限定されない対象の性質や特徴，被害の度合いが高い場合は，日本語も韓国語も受動構文が使用される
2. 結果の状態を描写する場合，日本語は動作主の存在の認識によって構文を使い分けるが，韓国語は対象の状態変化に着目して受動構文を使い分ける.

上記２について補足すると，韓国語の場合，事態を外側から眺めることで対象がどうなったかということを把握し，表現の選択を行っていると考えられる。一方，日本語は事態を内側から眺めることで，対象の状態と動作主との関わりの表現選択を可能にしていると考えられる。したがって，日本語は韓国語に比べ，より主観的把握を好む言語であると言える.

７．パラレルコーパスにおける受動構文の使用実態

今まで，動作主非明示の人為的行為を表す場合に，どのような構文が選択されるかを，アンケート調査の結果を元に考察してきた．視点の選択は構文選択に影響を与えることが確認されたと同時に，日本語と韓国語では視点選択に若干の違いがあることも浮き彫りになった．ここでは実例を観察し，韓国語は日本語に比べより客観性の高い言語であるという主張を検証する.

7.1.　使用したパラレルコーパス

日本の小説２編，村上春樹著『ノルウェイの森』，太宰治著『人間失格』とその韓国語翻訳本，総計4編を使用した．日本語の結果状態はシテイルまたはシテアルで表すとする日本語アスペクト研究の成果をふまえ，原作が日本語版の小説においてシテイル（受動文のシテイルも含む）とシテアルの文を同定した．それを基準に動作主が不定の人為的事態の結果を表しているものだけを取り出し，対応する韓国語の文とともに分析の資料とした.

7.2.　結果

表４に示したとおり，日本語では自動詞の使用が65.8%とほぼ３分の２を占めて多く使用されていた．シテアル構文の使用は19.5%とあまり多くなく，受動文の使用はさらに少なく，14.8%だった．韓国語は，受動文が３タイプ合わせて33.1%と最も多く，ほぼ同程度，自動詞の使用が見られた（30.0%）。３つの受動構文のうち，接辞形の使用が21.4%と最も多く，日本語の受動文を上回ったが，cita形やhata動詞toyta形の使用はそれぞれ7.0%, 4.7%と少なかった．受動構文だけを見ると韓国語のほうがその使用が高い.

7.3.　分析

調査の結果，動作主が不特定の人為的事態の表現の仕方が，日本語と韓国語では大きく異なることがわかった．ここでは，各構文ごとに各言語の特徴を見，どのような言い方が好まれるか傾向を示す.

7.3.1.（状態）受動文

表５は，日本語では受動文で表現された全38場面が韓国語ではどのような構文が選択され，表されたかを示したものである．約６割（57.9%）が韓国語でも受

表４．日韓語の人為的事態の結果の状態を表す場面における構文の分布状況（下段は％）

		合計		韓国語				
		日本語の％		接辞形	cita形	hata動詞 toyta形	自動詞	その他
日本語	サレテイル		38	8	7	7	5	11
		14.8%	100%	21.1%	18.4%	18.4%	13.2%	28.9%
	シテアル		50	14	1	1	8	26
		19.5%	100%	28.0%	2.0%	2.0%	16%	52%
	自動詞のシテイル		169	33	10	4	64	58
		65.8%	100%	19.5%	5.9%	2.4%	37.9%	34.3%
合計			257	55	18	12	77	95
		100%	100%	21.4%	7.0%	4.7%	30.0%	37.0%

動構文が選択されている．選択された受動構文も接辞形が８場面（21.1%），cita形とhata動詞toyta形が７場面（18.4%）と，ほぼ同程度見られた．自動詞文は５場面（13.2%）だった。

表５．（状態）受動文の使用数

接辞形	cita形	hata動詞 toyta形	自動詞	その他	計
8	*7*	*7*	*5*	*11*	*38*
21.1%	*18.4%*	*18.4%*	*13.2%*	*28.9%*	*100%*

■接辞形

（20）　教室の彼の机の上にはしばらくのあいだ白い花が飾られていた．（ノル）

그의　교실　책상　위에는　한동안
keuui　kyosil　chaeksang　wieneun　hantong-an
彼の　教室　机　上は　しばらくの間
하얀꽃이　놓여　있었다.
hayankkoch-i　noh-*ye*　iss-eossta
白い花が　置く-i/hi/li/ki-ていた

■cita形

（21）　人影はなく，どの窓もカーテンが引かれていた．（ノル）

사람　그림자는　보이지 않고　하나같이
salam　keulimcaneun　poici　anhko　hanakat-i
人　影は　見えず　一様に
창에는　커튼이　드리워졌다.
chang-eneun　keoteun-i　teuliwo-*cye*-ssta
窓には　カーテンが　引く-cita-た

■hata動詞toyta形

（22）　君のはいつも解放されてるみたいに見えるけどね．（ノル）

넌　평소에도　해방된
neon　pyeongso-eto　haepang-*toy*-n
君　普段にも　解放された
것처럼　보여.
keoscheoleom　poyeo
かのように　見える

■自動詞

（23）　だからこうした家並みがそのままに残されているのだ．（ノル）

그래서　이런　집들이　그대로
keulaeseo　ileon　cipteul-i　keutaelo
だから　このような　家が　そのまま
남은　것이다.
nam-eun　keos-ita.
残った　のだ

ここで使われている受動文は，行為そのものよりも目の前の状態を主体に着目せずに描写する「動作主の非焦点化（Givón 1981）」機能の受動文，すなわち，「降格受動文（益岡 1987, 1991）」である．つまり，対象の状態を自然にそうなったものとして捉えて描写していることから，能動文よりも自動詞文に近い「なる」表現，主観的な表現と言える．

受動文だけを見ると，益岡（1987, 1991）は「中立の立場からではなく，主体の側から当該の事象を描くという意味において，主観的な表現」である受影受動文に対して，降格受動文はより客観的な表現であると述べている．つまり，受動文の中では客観性の高い表現であり，韓国語も日本語の受動文のうち６割においてこの受動文が使用されており，そうした表現を好む傾向にあると言える．

7.3.2.　シテアル

日本語ではシテアルによって表現された場面は50あった．韓国語ではそのうち約３割の14場面が接辞形で表され，cita形，hata動詞toyta形はほとんどなかった（２%）．自動詞文は８場面で使用された（16%）（表６）．

表６．他動詞文の使用数

接辞形	cita形	hata動詞 toyta形	自動詞	その他	計
14	*1*	*1*	*8*	*26*	*50*
28%	*2%*	*2%*	*16%*	*52%*	*100%*

■接辞形

（24）　仲店のおもちゃ屋で，この手帖を開いてみたら，これ，ここに，シシマイ，と書いてある．（人間）

아사쿠사의　장난감　가게에서
asakusaui　cangnankam　kakeeseo
浅草の　おもちゃ　お店で

이　수첩을　펼쳐　보니까,
i　sucheop-eul　pyeolchyeo　ponikka,
この　手帳を　広げて　みると
이것　봐,　여기에　'사자탈'　이라고
ikeos　pwa,　yeokie　'sacatal'　ilako
これ　見て　ここに　シシマイ　と
쓰여　있잖아.
sseu-*ye*　isscanh-a.
書く-i/hi/li/ki-ているじゃない

(25)　ベッドのわきには旅行鞄がそのまま置かれ，白いコートが椅子の背にかけてあった.（ノル）
침대　곁에는　여행　가방이
chimtae　kyeot-eneun　yeohaeng　kapang-i
ベッド　そばには　旅行　かばんが
그대로　놓였고,　하얀　코트가
keutaelo　noh-i-eossko,　hayan　koteuka
そのまま　置かれ　白い　コートが
의자　등에　걸렸다.
uica　teung-e　keol-*lye*-ssta.
椅子　背に　かける-i/hi/li/ki-た

■自動詞

(26)　カー・ラジオがつけっぱなしになって，ワイパーにはガソリン・スタンドの領収書がはさんであった.（ノル）
라디오가　켜진　채였고,　와이퍼에는
latioka　kyeocin　chaeyeossko,　waipeoneun
ラジオが　付けっ放しで　ワイパーは
주유소　영수증이
cuyuso　yeongsuceung-i
ガソリンスタンドの　領収書が
껴　있었다.
kkyeo　iss-eossta.
はさまっていた

日本語の全場面におけるシテアル構文の使用は2割程度（19.5%）であった．シテアルはこれまで多くの研究者が指摘しているとおり，対象に着目して結果の状態（または動作の実現）を意味する表現である（益岡 1987, 原沢 2005, 副島 2007など）．動作主の明示がないとはいえ，その含意を強調する点では，出来事を自然作用として提示する自動詞と異なる．自動表現は「周りの状況全体が変化した」ととらえる「ナル表現」（池上・守屋 2009: 119）と考えられている．

シテアルが動作主を含意していることは，動作主の明示がなくとも誰が動作を引き起こしたか分かりやすいことからも言える．(24) の動作主はおそらく手帳の持ち主であり，(25) の動作主はコートの持ち主であり，(26) の動作主はガソリンスタンドの店員であることは想像に難くない．つまり，シテアルは動作主の含意があることから，出来事を自動詞のように完全に内部から見て把握しているのではなく，出来事との距離感をある程度保って当該事象を描いていると言える．

7.3.3.　自動詞文

池上（2011: 318）は，日本語話者は「話者が言語化しようとする事態の中に身を置き，当事者として体験的に事態把握をする」ことを好む，すなわち，「実際には問題の事態の中に身を置いていない場合であっても，話者はあたかもそこに臨場する当事者であるかのように，体系的に把握をする」という「主観的把握」を特に好むとし，心理的述語・指示詞・移動動詞などを日本語の「主観性」が現れる指標として挙げている（Ikegami 2005）.「何が起こったか」「どうなったか」といった描写を好むのは，外界の事態を話し手の視点からとらえるからであり，仮に人為的な事態であっても，事態の中に身をおいて自然にそうなったと捉え，表現する日本語の自動表現も，主観的な表現である．

表7は，日本語で自動詞が用いられた全169場面のうち，韓国語ではどのような構文で表現されているかを示したものである．韓国語では約4割（37.9%）が自動詞文，約3割（28.9%）が受動構文が選択されている．選択された受動構文の内訳は接辞形が32場面（20.1%），cita形 が10場面（6.3%），hata動詞toyta形が4場面（2.5%）であった．

表7．自動詞文の使用数

接辞形	cita形	hata動詞 toyta形	自動詞	その他	計
32	*10*	*4*	*64*	*58*	*169*
20.1%	*6.3%*	*2.5%*	*37.9%*	*34.3%*	*100%*

■接辞形

(27)　自分の部屋の上の小窓があいていて，そこから部屋の中が見えます．（人間）

제　방　위쪽의　작은　창문이
ce　pang　wiccok-ui　cak-eun　hangmun-i
私の　部屋　上側の　小さな　窓が
열려　있었기에　그곳을　통하여
cyeol-*lye*　iss-eosskie　keukos-eul　tonghayeo
開く-i/hi/li/ki-ていたので　そこを　介して
방안이　보였습니다.
pang-an-i　poyeossseupnita.
部屋が　見えました

(28)　屋上の隅の方に屋根のついたゲーム･コーナーがあって，子供向けのゲーム機がいくつか並んでいた．（ノル）

구석　쪽에　지붕이　달린　게임
kuseok　ccok-e　cipung-i　tal-li-n　keim
隅　方に　屋根が　ついた　ゲーム
코너가　있고　어린이용　게임기
koneoka　issko　eolin-iyong　keimki
コーナーが　あって　子供用　ゲーム機
몇　대가　놓여　있었다.
myeoch　taeka　noh-*ye*　iss-eossta.
何　台が　置く-i/hi/li/ki-ていた

■cita形

(29)　ロウソクが消され，居間の電灯も消えていた．（ノル）

촛불은　꺼지고　거실　전등도
chospul-eun　kkeociko　keosil　ceonteungto
ろうそくは　消え　居間　電灯も
꺼졌다.
kkeo-*ci*-eossta.
消す-cita-た

■自動詞

(30)　螢はインスタント･コーヒーの瓶に入っていた．（ノル）

그건　인스턴트커피　병에
keukeon　inseuteonteukeopi　pyeong-e
それは　インスタントコーヒー　瓶に
들어　있었다.
teul-eo　iss-eossta.
入って　いた

このように，日本語の自動詞による表現は韓国語においては自動詞文か受動構文で表され，自動詞による表現が日本語ほど多くは使われないという結果であった．このデータは，韓国語と比べると日本語のほうが自動詞を好んで用いるということを示しており，事象を内側から眺めて主観的に表現する傾向があることを如実に示しているものと言える．

韓国語では受動構文や自動詞文以外の「その他」の構文選択が95場面，37.0%を占めたが，「その他」にはどのような表現があるのか，次に見ていく．

7.3.4.「その他」の表現

ここで言う「その他」の表現というのは，日本語の受動構文，シテアル，自動詞文で表された場面において，韓国語では受動構文や自動詞文以外の構文が使用された例のことを指す．ここでは，韓国語で「その他」に分類された95の場面においてどのような構文が選択

表８．韓国語「その他」表現の分布状況（下段は％）

		合計		韓国語		
				能動形		その他
		日本語の％		他動詞	存在動詞	
日本語	サレテイル		11	8	0	3
		11.6%	100%	72.7%	0%	27.3%
	シテアル		26	11	8	7
		27.4%	100%	42.3%	30.8%	26.9%
	自動詞のシテイル		58	10	23	25
		61.1%	100%	17.2%	39.7%	43.1%
合計			95	29	31	35
		100%	100%	30.5%	32.6%	36.8%

されたかを検討する.

■ 他動詞

(31) 「それ洗ってあるから食べられるわよ」(ノル)

“이거　씻은　거니까
ikeo　ssis-eun　keonikka
これ　洗った　のだから
먹어도　돼.”
meok-eoto　twae
食べても　いい

■存在動詞

(32) (田舎ではありましたが，その家には，たいていのものが，そろっていました)(人間)

- 시골　이기는　하지만　그　집에는
sikol-ikineun　haciman　keu　cip-eneun
田舎　とはいえ　その　家には
무엇이든　있었습니다 -
mueos-iteun　iss-eossseupnita
なんでも　ありました

例文(31)や(32)のように，自動詞以外では他動詞を能動文として用いられたり(29例，30.5%)，目の前に存在することだけを示す存在文を用いられたり(31例，32.6%)している．池上(2011: 318)は主観的把握に対する概念として「客観的把握」について次のように説明している．「話者が言語化しようとする事態の外に身を置き，傍観者，ないし観察者として客観的に事態把握をする場合．実際には問題の事態の中に身を置いている場合であっても，話者はあたかもその事態の外に身を置いている傍観者，ないし観察者であるかのように，客観的に事態を把握する」．自動詞や受動構文に比べ，他動詞の能動文による表現は事態をその外から傍観者的に眺めて描写したものであると言える．また，存在文は自動詞の典型的なものであるが，結果の状態をもたらした行為の含意がなく，眼前の状態をありのままに捉えて表現していることから，当事者としてというより傍観者的に捉えた客観的な表現であると考えられる．このように韓国語のほうが出来事をより客観視する傾向にあると思われる．

7.4. パラレルコーパスに見られる受動構文選択の特徴

以上，パラレルコーパスに見られる構文選択の傾向を分析してきた．ここから，動作主が不特定の意図的に行われる動作を描写する場合の，日本語と韓国語の特徴は次のようにまとめられる．

1. 韓国語も日本語も受動構文や自動詞文を用いる．
2. 日本語はシテアル構文も用いる．韓国語は他動詞の能動文や存在文を用いることもある．
3. 日本語は自動詞の使用が6割以上と韓国語に比べて高い．

上記2と3について補足すると，韓国語は事態を外側から客観的にながめ，日本語は話者の主観に依存しつつ，内側からながめているということが言える．このようにアンケート調査の結果と同じことがパラレルコーパスの分析からも観察され，韓国語は日本語に比べより客観性の高い言語であることが，ここでも確認できた．

8．日本語と韓国語の比較

以上のことから，日本語と韓国語において，事態把握の傾向として，動作主が不特定の人為的事態を表現する場合，主観性を好むのは日本語であり，相対的に客観性を好むのは韓国語ということになる．この主張について，眼前の状態をどのように捉え，描写するかという事態把握の観点から構文の特徴を整理すると，次のようになる．

自動詞による描写は，事態を対象そのものの視点で捉え，把握する主観的把握と言える．一方，韓国語で使用が認められた存在文や他動詞の能動文は，状態を引き起こした事態を目に見えない(不定の)動作主も含めてより引いた視点で捉え，把握する客観的把握と言える．受動文とシテアル構文はその中間と言えるが，動作主の意図が明確で，その含意が強調されるシテアル構文の方がより客観的であると考えられる．

韓国語の受動構文にはcita形と接辞形がある．アンケート調査の結果からcita形は対象そのものの状態変化の場合に好んで選択され，接辞形は対象の間接的な

状態変化，位置変化の場合，すなわち，動作主・原因へ焦点化が行われる場面に好んで選択されることを指摘した．紙幅の都合で詳述できなかったが，パラレルコーパスのデータでも同様の傾向が見られた．また，韓国語の受動表現においては接辞形の使用が韓国語の受動表現の中では最も高かった（21.4%）．ここにも，韓国語の，事態を動作主・原因も含めて全体的に捉えようとする客観的把握の傾向が見てとれる．

以上の両言語の事態把握の傾向をUehara（2006）の主観性のスケールを援用し図示すると以下のようになる．

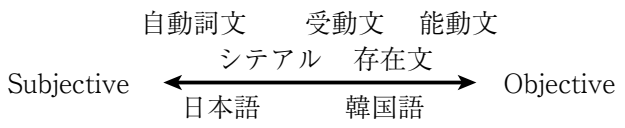

図１　結果表現における主観性の尺度

９．結

本研究は，動作主不特定の人為的事態を表す場合，言語間でどう違うかという問題を，日本語と韓国語の対訳コーパスにおいて比較した．その結果以下の点が明らかになった．

動作主が不特定の人為的事態を表す場合，

I. 日本語は，明確な動作主の存在を前提としない自動的表現が多く用いられることから，主観的把握を好んで表現する傾向にある．

II. 結果の状態を受動構文で描写する場合，韓国語では主語である変化物と動作主の関係を前提とした接辞形を選択する傾向にあり，より客観的描写を好む．

従来の日韓対照研究では受動文や自動詞といった表現そのものの意味や用法の違いについて考察したものが多かったが，本稿では同一場面における構文選択の分布状況，すなわち両言語の「好まれる言い回し」とは何かに着目することで，日本語と韓国語の事態把握の傾向を明らかにすることができた。

今後，さらに調査項目や調査対象者を増やし，より精緻に分析を行っていく必要がある．また，韓国語以外の言語でも同様の調査をし，「言語の自然さ」，「～語らしさ」を認知類型の違いで説明を試みたい．さらに，今回はアスペクトの側面にまで言及することはできなかったが，データの中には日本語では継続相で表現するところを韓国語では完成相で表現される例が散見された．どんな場合にそうなるのか，そこに見られる事態把握の特徴はどのようなものか，今後明らかにする必要がある．

註

１）接辞形は，固有語の形容詞と動詞の語幹に付き，「どの用言に付くのか，-i/hi/li/ki-のうちどの形が付くのかはすべて語彙的に決まっている」（円山 2015: 111）。また，「自動詞化・他動詞化・受動化・使役化という複数の機能」を持ち，動詞の形態だけでは「どれに該当するのか判別でき」ない（円山 2015: 111）。本稿で取り扱う接辞形のデータは，個々の構文や文の意味，文脈から受動文と判断した。

２）語彙的・形態的な制限が強い接辞形にたいし，「助動詞cita」は，「語彙的な制限をあまり受けずに用言と結びつく」ことができる「非常に生産性の高い形式」である（円山 2016: 7）。

３）하다 hata 動詞は日本語の漢語サ変動詞に該当する。

４）例文６については引用文献にあったものをそのまま掲載しているが，何人かの韓国語母語話者および査読者から不自然または間違った表現という指摘を受けた。

謝辞

本研究は，ICJLE2016年日本語教育国際研究大会（2016年9月10日於バリ，インドネシア）および第10回日本語実用言語学国際会議ICPLJ（2017年７月９日於東京）において発表した内容を加筆・修正したものです。貴重なご教示をいただいた方々に心より感謝申し上げます。なお，本研究の一部は科研費（#15K02499）によります。

参考文献

池上嘉彦．1981.「する」と「なる」の言語学―言語と文化のタイポロジーへの試論．大修館書店.

池上嘉彦・守屋三千代（編著）. 2009. 自然な日本語を教えるために－認知言語学をふまえて. ひつじ書房

池上嘉彦. 2011. “日本話者における＜好まれる言い回し＞としての＜主観的把握＞”. 人工知能学会誌. 26 (4), 317-322.

ヤコブセン, ウェスリー. M. 1989. “他動詞とプロトタイプ論”. 久野暲・柴谷方良（編）. 日本語学の新展開. くろしお出版: 213-248.

生越直樹. 2008. “現代朝鮮語における様々な自動・受動表現”. 生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一（編）. ヴォイスの対照研究―東アジア諸語からの視点―. くろしお出版: 155-185.

奥川育子. 2007. “語りの談話における視点と事態把握”. 筑波応用言語学研究. 14: 31-43.

金慶珠. 2001. “談話構成における母語話者と学習者の視点－日韓両言語における主語と動詞の用い方を中心に”. 日本語教育. 109: 60-69.

志波彩子. 2006. “２つの受身―被動者主役化と脱他動化―”. 日本語文法. 4 (2) : 196-212.

杉村泰. 2013. “対照研究から見た日本語教育文法―自動詞・他動詞・受身の選択―”. 日本語学. 32 (7) : 40-48, 明治書院

千英子・柏原卓. 2006. “現代日本語の文学作品における受身文の研究―韓国語との対応関係分析を中心として―”. 和歌山大学教育学部紀要 人文科学. 56: 129-136.

徐珉廷. 2013. “日韓母語話者と韓国人日本語学習者の事態把握―シナリオ作成法調査の結果から―”. 学苑. 871: 51-65. 昭和女子大学

田代ひとみ. 1995. “中上級日本語学習者の文章表現の問題点－不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる－”. 日本語教育. 85: 25-37.

角田太作. 1991. 世界の言語と日本語. くろしお出版

原沢伊都夫. 2005. “テアルの意味分析－意図性の観点から－”. 日本語文法. 5 (1) : 20-3

堀江薫・P. パルデシ. 2009. 言語のタイポロジー―認知類型論のアプローチ―. 研究社

許明子. 2004. 日本語と韓国語の受身文の対照研究. ひつじ書房

益岡隆志. 1987. 命題の文法―日本語文法序説. くろしお出版

益岡隆志. 1991. “受動表現と主観性”. 仁田義雄（編）. 日本語のヴォイスと多動性. くろしお出版, 69-76.

円山拓子. 2015. “韓国語の語彙的自他交替―接辞-i/hi/li/ki-による派生の双方向性―”. パルデシ P. ほか（編）. 有対動詞の通言語的研究―日本語と諸言語の対照から見えてくるもの―. くろしお出版, 109-125.

円山拓子. 2016. 韓国語citaと北海道方言ラサルと日本語ラレルの研究. ひつじ書房

渡邊亜子. 1996. 中・上級日本語学習者の談話展開. くろしお出版

Givón, Talmy. 1981. “Typology and functional domains.” *Studies in Language,* 5 (2): 163-193

Hopper, P.J. and S.A. Thompson. 1980 Transitivity in grammar and discourse. *Language,* 56 (2): 251-299.

Ikegami, Y. 2005. “Indices of a “Subjectivity-Prominent” Language: Between Cognitive Linguistics and Linguistic Typology.” *Annual Review of Cognitive Linguistics,* 3: 132-164.

Soejima, Kensaku. 2004. “On expressions of agent de-topicalized intentional events: A contrastive study between Japanese and Russian.” *Journal of Japanese Linguistics,* 30: 115-136.

Uehara, Satoshi. 2006. “Toward a typology of linguistic subjectivity: a cognitive and cross-linguisitc approach to grammaticalized deixis.” In: Angeliki Athanasiadou, Contas Canakis, and Bert Cornillie (eds.) *Subjectification: various paths to subjectivity,* 75-117. Berlin: Mouton de Gruyter.